

第70回定時総会の報告 第69回現代歌人協会賞授賞式報告

田中拓也

二〇二五年六月二十六日（木）、アルカディア市ヶ谷において、二〇二五年度第70回定時総会、第69回現代歌人協会賞授賞式が行われた。

定時総会の挨拶の中で栗木京子理事長は、学術分野において短詩

現代歌人協会会報 184

系文学の置かれている立場が難しくなっているが、表現の今と未来を守ることに大切さについて考えていきたいと所感を述べた。

次に司会の中沢直人より、会員八九三名のうち、出席者五十七名、委任状提出四七九名で、定足数に達し、総会の成立が報告された。

その後、栗木理事長から二〇二四年度の事業報告が行われた。

同年の定時総会・現代歌人協会賞授賞式はアルカディア市ヶ谷にて実施。全国短歌大会の応募は一九四七首で前年よりも約二五七

首増加。全六回の公開講座は配信を含む聴講者のべ七五八名、その内容は「歌壇」に連載された。また、インターネット上で行われた「短歌なんでも相談所」の参加者は六八二名、同じく「短歌の文化祭」は一二七二名と二つのイベントでのべ二千人近くが短歌を通して交流する機会となった。この他に各委員会、定例理事会、会報の発行等が報告された。

続いて、加藤英彦による収支報告、桑原正紀監事による監査報告があり、承認された。

次に、二〇二五年度事業計画案が栗木理事長から示された。

公開講座のテーマは引き続き「協会賞歌集を読み返す」（全六回）をプラザエフ、第54回全国大会を十月二十五日（土）に喜山倶楽部、第48回現代短歌大賞授賞式等を十二月十八日（木）にアルカディア市ヶ谷で開催予定と提案された。また、二年ぶりとなる現代短歌フェスティバルを北海道で、オンライン上のイベントとして「短歌の文化祭」を検討していることが提案された。

続いて加藤英彦より本年度予算

案の説明があり、承認された。次に、二年毎に改選される新理事として佐藤弓生・田中拓也・田村元の三人の就任が承認された。また、坂井修一副理事長より現代歌人協会の新会員の三十三人が紹介され承認された。

議事終了後、第69回現代歌人協会賞の選考経過が吉川宏志選考委員長より報告された。受賞歌集は金田光世『遠浅の空』、久永草太『命の部首』の二冊（詳細は二〇二五年七月発行の会報一八三号に掲載）。

定時総会后、臨時理事会が開催された。理事十九名中十八名、監事二名中二名が出席、互選により春日いづみが議長に選出された。代表理事（理事長）選定の件は、坂井修一副理事長を推薦したいとし、全員異議なくこれを了承し、可決決定した。

その後、会場を移して現代歌人協会賞の授賞式と懇親会が行われた。まず、司会の中沢直人から、坂井修一新理事長が選出されたことの報告が行われた。

次に栗木前理事長より金田・久永両氏に祝辞が述べられ、論作両面での活躍を期待するとの激励があった。

次に坂井新理事長より栗木前理事長への謝辞とともに、受賞者の二人にお祝いの言葉が述べられた。授賞式では吉川宏志からの選考理由報告の後、石川美南からは

金田氏の人柄と作品について心温まるエピソードが紹介され、春日いづみからは久永氏に、歌集名の強いエネルギーに驚いたという率直な感想と温かい祝辞が述べられた。

受賞の挨拶の中で金田氏は自身が詠み続けている「一空」に対する考えを語った。久永氏は作品におけるフィクションの問題について自身の考えを率直に語った。

乾杯の発声は伊藤一彦氏。自身をはじめ五十代になって初めて賞を受賞した歌人が少なくないことを踏まえて、長くうたいつづけてほしいという激励が述べられた。

その後も多くの参加者から祝辞が述べられる中、和やかな雰囲気の中で閉会を迎えた。

